

第63期

株主通信

2023年4月1日 ▶▶▶ 2024年3月31日

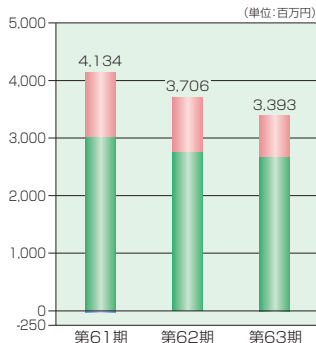


麻生フォームクリート株式会社

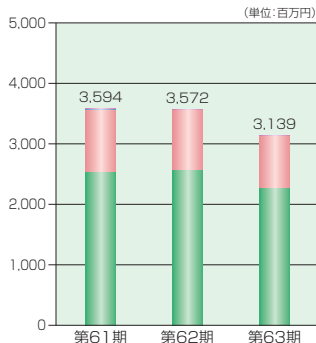
証券コード 1730

業績ハイライト

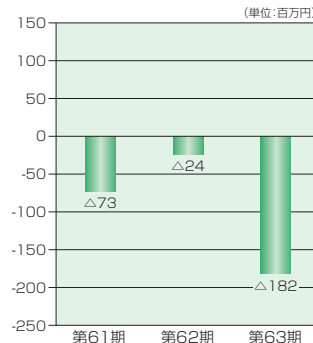
■ 受注高 (単位:百万円)



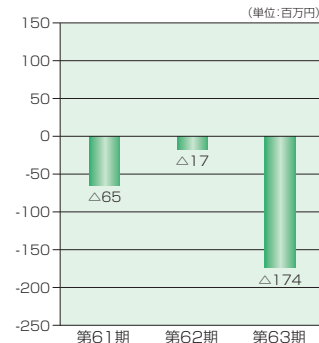
■ 売上高 (単位:百万円)



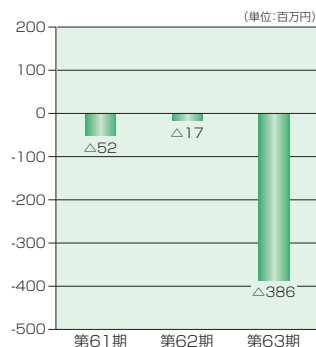
■ 営業損失(△) (単位:百万円)



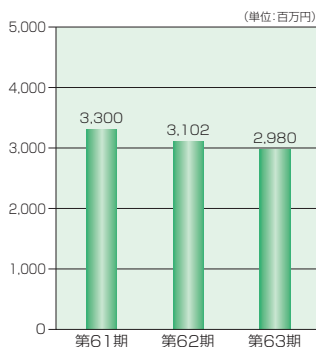
■ 経常損失(△) (単位:百万円)



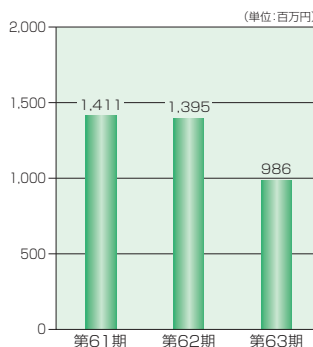
■ 当期純損失(△) (単位:百万円)



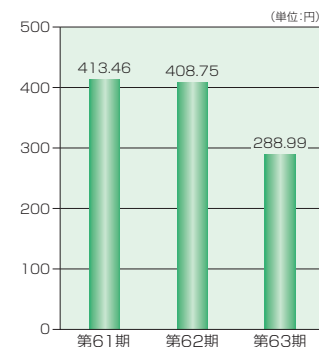
■ 総資産 (単位:百万円)



■ 純資産 (単位:百万円)

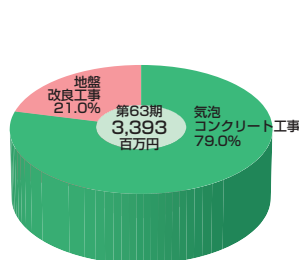


■ 1株当たり純資産 (単位:円)



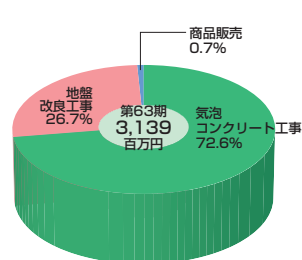
■ 受注高内訳及び構成比

第63期	
軽量盛土工事	1,571
管路中詰工事	446
空洞充填工事	662
気泡コンクリート工事計	2,680
地盤改良工事	712
その他工事	—
計	3,393



■ 売上高内訳及び構成比

第63期	
軽量盛土工事	1,179
管路中詰工事	519
空洞充填工事	578
気泡コンクリート工事計	2,277
地盤改良工事	839
その他工事	—
商品販売	23
計	3,139



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第63期株主通信をお届けするに当たりご挨拶申し上げます。

第63期事業年度の業績は、2001年4月に当社株式を公開してから最大の当期純損失を計上することとなり、株主の皆様には大変ご心配、ご迷惑をおかけいたしました。社長といたしまして深くお詫び申し上げます。

先ずは業績の立て直しが喫緊の課題であり、当社を取り巻く事業環境を再度分析し、事業戦略を検討してまいります。

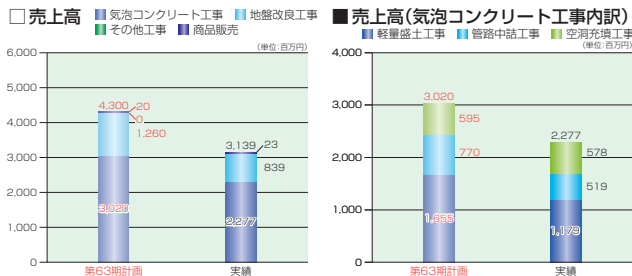
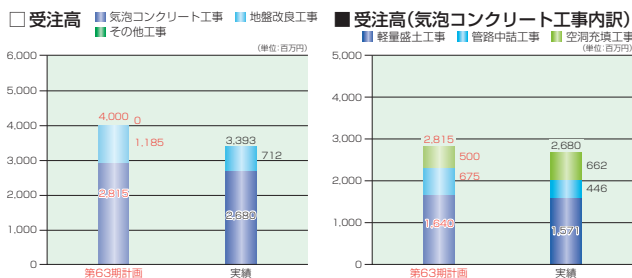
また昨今の業績低迷の要因は、発注時期や施工時期の案件情報収集力の弱体化と考えております。

第64期事業年度におきましては、業績回復に向け伸び悩んでいる受注高・売上高の増加をはかるため、引き続き建設コンサルタントを中心に当社工法・材料の提案及び設計協力活動を強力に推進し、中長期的な視野も含め需要創造と案件情報収集力の強化をはかってまいります。

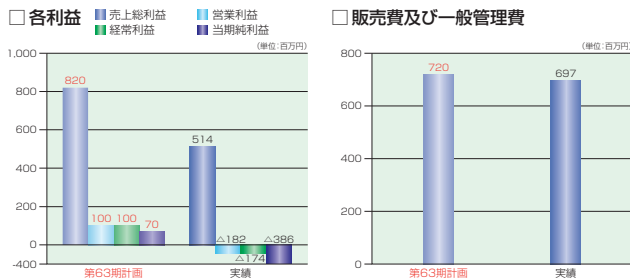
また継続的に取組んでいる生産性向上のための現場ICT化の実用化を推進するとともに、働き方改革の実現に向け、業務効率化のための社内業務システムの構築をはかってまいります。

最後に、当社は東京証券取引所スタンダード市場上場維持基準のうちの流通株式時価総額基準をまだ充たしていないため、引き続き各種取組みを推進し適合を目指してまいります。

■第63期事業の概況



今後とも株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



■次期の見通し

第64期事業年度の建設業界におきましては、公共投資については底堅い推移が想定されますが、民間建設投資では建設コストの上昇が建設需要を抑制し、投資額は前年度と同水準になると予想されます。また、就業者の高齢化が進み就業者数も減少傾向にあることから、労務単価の高止まりによるコスト上昇が続き、受注競争は引き続き厳しい状況が予想されます。

当社といたしましては、営業展開の強化をはかり受注量の確保と施工効率の向上に取組み、収益性の改善に努めてまいります。

次期の業績につきましては、主力の気泡コンクリート工事が軽量盛土工事において北関東での大型工事の受注を見込んでいることから受注高4,310百万円、前事業年度からの繰越工事が多いことから売上高4,650百万円、利益面では施工能力強化とコスト削減による収益性の改善をはかりつつ、受注拡大のための人件費等の増加を見込み、営業利益130百万円、経常利益131百万円、当期純利益90百万円を見込んでおります。

（注）上記の予想は、本株主通信作成時において入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますことをご承知おきください。



代表取締役社長
花岡 浩一

財務諸表（要約）

貸借対照表

(単位：千円)

区 分	第62期 2023年3月31日現在	第63期 2024年3月31日現在	増減額 (対前期)
資産の部			
流動資産	1,445,916	1,561,262	115,346
固定資産	1,656,361	1,418,964	△237,397
有形固定資産	1,374,960	1,221,632	△153,328
無形固定資産	26,549	17,086	△9,463
投資その他の資産	254,850	180,245	△74,605
資産合計	3,102,278	2,980,227	△122,051
負債の部			
流動負債	945,328	970,128	24,800
固定負債	761,588	1,023,563	261,975
負債合計	1,706,917	1,993,691	286,774
純資産の部			
株主資本	1,393,017	972,710	△420,307
資本金	209,200	209,200	—
資本剰余金	180,400	180,400	—
利益剰余金	1,004,990	584,683	△420,307
自己株式	△1,572	△1,572	—
評価・換算差額等	2,343	13,825	11,482
純資産合計	1,395,360	986,536	△408,824
負債・純資産合計	3,102,278	2,980,227	△122,051

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位：千円)

区 分	第62期 (自2022年4月1日 至2023年3月31日)	第63期 (自2023年4月1日 至2024年3月31日)	増減額 (対前期)
売上高	3,572,124	3,139,575	△432,549
売上原価	2,902,540	2,624,966	△277,574
売上総利益	669,583	514,609	△154,974
販売費及び一般管理費	694,489	697,457	2,968
営業損失(△)	△24,906	△182,847	△157,941
営業外収益	15,026	15,262	236
営業外費用	7,407	7,399	△8
経常損失(△)	△17,286	△174,985	△157,699
特別損失	0	124,124	124,124
税引前当期純損失(△)	△17,286	△299,109	△281,823
法人税、住民税及び事業税	2,161	2,161	0
法人税等調整額	△1,752	84,897	86,649
当期純損失(△)	△17,696	△386,169	△368,473

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

区 分	第62期 (自2022年4月1日 至2023年3月31日)	第63期 (自2023年4月1日 至2024年3月31日)	増減額 (対前期)
営業活動による キャッシュ・フロー	232,829	△246,644	△479,473
投資活動による キャッシュ・フロー	△119,839	△82,755	37,084
財務活動による キャッシュ・フロー	△44,779	243,459	288,238
現金及び現金同等物 の増減額(△は減少)	68,210	△85,940	△154,150
現金及び現金同等物 の期首残高	730,184	798,394	68,210
現金及び現金同等物 の期末残高	798,394	712,454	△85,940

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(単位：千円)

第63期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	株主資本										評価・換算差額等		純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・ 換算差額 等合計	
		資本 準備金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計					
					別途 積立金	固定資産 圧縮積立金	繰越利益 剰余金						
当期首残高	209,200	180,400	180,400	24,050	885,000	485	95,454	1,004,990	△1,572	1,393,017	2,343	2,343	1,395,360
当期変動額													
剰余金の配当							△34,137	△34,137		△34,137			△34,137
固定資産圧縮積立金取崩						△105	105	—		—			—
当期純損失(△)							△386,169	△386,169		△386,169			△386,169
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)											11,481	11,481	11,481
当期変動額合計	—	—	—	—	—	△105	△420,200	△420,306	—	△420,306	11,481	11,481	△408,824
当期末残高	209,200	180,400	180,400	24,050	885,000	379	△324,745	584,683	△1,572	972,710	13,825	13,825	986,536

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 第63期決算のポイント

ポイント①受注高

気泡コンクリート工事の各工種の受注高は、気泡コンクリート工事市場の中で市場規模が大きい軽量盛土工事の受注高が前事業年度比17.6%増となりましたが、管路中詰工事で見込んでいた大型工事の発注遅れなどにより前事業年度比41.8%減、空洞充填工事も見込んでいた一部工事の発注時期の遅れから前事業年度比0.5%減となったことから、気泡コンクリート工事全体の受注高は前事業年度比3.2%減(計画達成率95.2%)となりました。

地盤改良工事の受注高は、受注競争の激化から見込んでいた複数の大型工事の失注などにより、前事業年度比24.0%減(計画達成率60.1%)となりました。

ポイント②完成工事高

気泡コンクリート工事の各工種の完成工事高は、空洞充填工事は前事業年度からの繰越工事高が多かったことにより前事業年度比13.6%増となりましたが、軽量盛土工事が前工程の遅れにより事業年度内に施工を見込んでいた一部大型工事の工期のずれ込みなどから前事業年度比11.1%減に、管路中詰工事も受注高の減少から前事業年度比30.1%減となり、気泡コンクリート工事全体の完成

工事高は前事業年度比11.7%減(計画達成率75.4%)となりました。

地盤改良工事の完成工事高も、受注高の減少により、前事業年度比13.7%減(計画達成率66.6%)となりました。

ポイント③営業損失

前事業年度に引き続き、常勤役員の役員報酬や年体制の幹部社員の年俸の減額の実施を含め、販売費及び一般管理費のコスト低減に努めましたが、売上高の絶対額不足により売上総利益で販売費及び一般管理費が吸収出来ず、営業損失を計上する結果となりました。

ポイント④減損損失・繰延税金資産の取り崩し

業績動向を受け、連続赤字の大阪支店の固定資産について、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失119百万円を特別損失として計上し、併せて事業環境と今後の業績動向等を総合的に勘案し、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、繰延税金資産を取り崩し、法人税等調整額として84百万円を計上しました。

トピックス

1. 震災復旧工事で真価を発揮！多様な用途で活躍するエアモルタル

熊本県の九州電力黒川第一発電所復旧工事において、当社のエアモルタルが、発電所リニューアル工事のための急斜面つづら折りのアクセス道路の拡幅工事（5箇所）と、崩壊するなどしている老朽化した水路トンネルを新しく水圧トンネルに移行するため、旧トンネル（延長3km）を閉塞充填する工事に採用されました。当社の道路工事におけるFCB工法でのTOPシェアの実績と品質、空洞充填工事における長距離圧送技術（5kmの実績）が評価され、震災復旧工事で活躍しています。



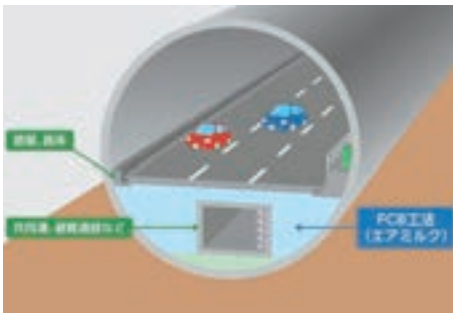
道路拡幅盛土工事



長距離水路トンネル閉塞工事

2. 全国初！高速道路大規模シールドトンネルの路床盛土工事に採用

圏央道横浜環状南線桂台トンネル工事において、シールド工法トンネル内の路床盛土材として、当社のエアミルクが初めて採用されました。従来工法の一般盛土や流動化処理土では運搬車両や重機使用により作業環境への負荷が大きく、また大量の材料の供給が追い付かず工期への影響が懸念されましたが、エアミルクは現地坑外プラントで連続製造し、打設位置までの長距離圧送が可能であることで問題を解決、工期短縮の効果も発揮しています。今後全国で高規格道路の整備が進んでいく中で、当社工法がさらに普及することが期待されます。



概略図



現場打設後写真

■ 会社概要 (2024年3月31日現在)

会社名	麻生フォームクリート株式会社
本社所在地	神奈川県川崎市中原区苅宿36番1号
従業員数	98名
設立	1961年(昭和36年)6月1日
資本金	2億920万円
事業内容	気泡コンクリートの現場施工 地盤改良工事の施工 その他工事の施工及び工事施工用資材 (起泡剤等)の商品の販売

■ 役員 (2024年6月26日現在)

代表取締役社長	花岡 浩 一
常務取締役	長谷川 隆 敏
取締役	井上 喜 博
取締役	嘉村 隆 浩
取締役	杉山 嘉 則
取締役	村 関 不三夫 (独立社外役員)
取締役	朝倉 俊 弘 (独立社外役員)
常勤監査役	阿部 新太郎
監査役	沼田 紳 介 (独立社外役員)
監査役	大 瀆 理
監査役	大木 章 史 (独立社外役員)

● 主な工事経歴

注 文 者	工 事 名
日特建設株式会社	黒川第一発電所総合更新(復旧)工事のうち土木除却工事
飛鳥建設株式会社	導水管更新に伴うトンネル築造工事
株式会社ナカノフドー建設	株式会社ライフドリンクカンパニー御殿場工場・倉庫建設工事
村井建設株式会社	北海道横断自動車道釧路市鶴野西改良工事
白崎建設株式会社	北海道横断自動車道釧路市鶴野改良工事



地盤改良工事施工風景

● 支店・営業所

東京支店	神奈川県川崎市中原区苅宿36番1号
大阪支店	大阪府茨木市沢良宜西4丁目15番14号
福岡支店	福岡県糟屋郡須恵町大字須恵714番地1
札幌営業所	北海道札幌市中央区北一条西16丁目1番地27 北海道たばこ会館ビル4F
東北営業所	宮城県仙台市太白区泉崎1丁目32番20号 プレミア泉崎102号室
東京営業所	東京都千代田区神田駿河台3丁目3番 お茶の水伊藤ビル2F

■ 株式の状況 (2024年3月31日現在)

■発行可能株式総数	普通株式 12,080,000株
■発行済株式の総数	普通株式 3,413,729株 (自己株式6,271株を除く)
■一単元の株式の数	100株
■株主数	1,812名 (うち議決権を有する株主数1,436名)

■ 大株主

株主名	所有株式数(株)	所有株式数の割合(%)
株式会社麻生	1,420,000	41.59
株式会社麻生地所	400,000	11.71
麻生商事株式会社	300,000	8.78
宗教法人萬福寺	232,300	6.80
楽天証券株式会社	79,100	2.31
麻生興産株式会社	40,000	1.17
麻生 泰	40,000	1.17
麻生フォームクリート従業員持株会	36,800	1.07
日本証券金融株式会社	32,200	0.94
堺阪南運送株式会社	26,000	0.76

(注) 所有株式数の割合は自己株式(6,271株)を控除して計算しております。

■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月下旬

基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
及び特別口座の 三井住友信託銀行株式会社
口座管理機関

郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話0120-782-031 (フリーダイヤル)
受付時間 9:00~17:00 (土日休日を除く)

○住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

○未払配当金の支払について


株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■ ホームページのご案内

麻生フォームクリートはホームページ上でも各種IR情報を発信しております。ぜひご活用ください。

<https://www.asofoam.co.jp/>



 **麻生フォームクリート株式会社**

神奈川県川崎市中原区荻宿36番1号

お問い合わせ先 TEL044-422-2061(代表) 財務経理部